

学部等名	コンピュータサイエンス学部 コンピュータサイエンス学科
------	-----------------------------

1. 教育目的・使命の明確化

学部等がどのような人材を育てたいのか、その方向性が明確かどうかを確認します。

1-1. 当該学部等の教育理念・目的が大学全体の方針と整合しているか記載してください。
コンピュータサイエンス学部では、ICT 分野の幅広い領域に対応する視座や思考力を養い、社会に新しい価値を生み出せる技術者の育成を目的としています。この目的は、大学全体の基本理念における生活の質向上や技術発展に貢献する人材育成と整合しています。

1-2. 社会的ニーズや地域との関係性を踏まえた教育の方向性を記載してください。
ICT の進歩により社会が激しく変化しており、ICT エンジニアが求められる領域が広がり続けています。コンピュータサイエンス学部では、これらの社会変化や領域の広がりに対応するため、新たな技術開発に主眼を置く「先進情報専攻」と、社会的な価値創造を軸とする「社会情報専攻」を設け、多様な領域に対応した ICT 知識体系・スキル開発体系に基づいたカリキュラムを組み立て、社会に新しい価値を生み出すための知識を学べるようにしています。これにより、将来にわたり第一線で活躍できる創造的人材を育てていきます。

1-3. 教育目標が学生や教職員に周知されているか記載してください。
コンピュータサイエンス学部では、教育目標や育成する人材像を明確にし、学部の Web サイトやガイダンス等を通じて学生・教職員に周知しています。特に新年度のガイダンスにおいて、学生に毎年周知しています。

自己評価	
ア. 課題を改善した又は新しい取り組みを実施した イ. 前年どおりである又は特に問題はない ウ. 改善・修正が必要な点がある。	ウ

上記、「ア」を選択した場合、改善した課題又は新しい取り組みを記載してください。

上記、「ウ」を選択した場合、改善、修正案を記載してください。
学生便覧にて、教育目標や育成する人材像を記載して、学生や教員に周知する。

2. 内部質保証体制の整備

3つのポリシーを起点とする教育の質を自ら点検・改善する仕組みがあるかを確認します。

2-1. 学部内における質保証の組織体制（委員会、責任者など）を記載してください。

コンピュータサイエンス学部では、学部内の教務委員会やアゴラにおいて、教育の質を継続的に改善するため、教育目標やカリキュラムの達成状況を定期的に自己点検・評価しています。教務委員会の組織体制は、教務委員長を責任者とし、教務副委員長を1人、その他の教務委員11人であり、これらは学部の教員が担当し、その他に学務課の職員2人で構成しています。アゴラは学部内の情報共有や議論の場であり、そこで教育目標やカリキュラムの達成状況の共有や議論を実施しています。

2-2. 内部質保証のための自己点検・評価の実施状況とその結果の共有について記載してください。

コンピュータサイエンス学部では、教務委員会における質保証の評価を教授総会において学部内で共有し、IRによるデータ分析やアゴラにおける教員同士での議論で改善すべき点を洗い出すことで、教育改善に活用されています。

さらに、大学で設置されている教育力強化委員会における授業点検において、学部の個別の科目に対して、教授法や授業内容のカリキュラムとの整合性について議論しています。2024年度は前期に4科目、後期に2科目の授業点検を実施しました。

2-3. IR (Institutional Research) によるデータ収集・分析の活用を記載してください。

コンピュータサイエンス学部では、法人本部コミュニケーション企画部、学長室、学務課やIRセンターと連携し、授業アンケートを含めた学生アンケートなどから学生の学修成果や履修状況、授業評価等のデータを収集・分析しています。これにより、教育課程の改善や学修支援の充実を図るとともに、自己点検・評価の根拠資料として活用し、教育の質保証に資する体制を整えています。

2-4. 学生・学外関係者の意見・要望をくみ上げる仕組みと分析結果を教育研究の向上に生かす努力について記載してください。

コンピュータサイエンス学部では、授業アンケート、学生生活アンケートやガイダンス、地域や企業との連携活動を通じて学生・学外関係者の意見や要望を収集しています。これらの意見や要望に基づき、教授総会やアゴラで共有や議論することで、教育内容や研究活動の改善に反映されています。

自己評価

- ア. 課題を改善した又は新しい取り組みを実施した
- イ. 前年どおりである又は特に問題はない
- ウ. 改善・修正が必要な点がある。

イ

上記、「ア」を選択した場合、改善した課題又は新しい取り組みを記載してください。

上記、「ウ」を選択した場合、改善、修正案を記載してください。

3. 教育課程の編成・実施

学生が体系的に学べるように教育課程が設計・運用されているかを確認します。

3-1. 3つのポリシーの策定状況と周知方法について記載してください。

コンピュータサイエンス学部では、ディプロマ・カリキュラム・アドミッションの3つのポリシーを策定し、学部の Web サイトや学生便覧等を通じて学生・教職員に周知しています。これらのポリシーは、教育課程の設計や学修成果の評価、入学者選抜の方針に反映され、教育の質保証と継続的改善に活用されています。

3-2. カリキュラム・ポリシー（CP）に沿った体系的な教育課程を編成し、実施しているか記載してください。

コンピュータサイエンス学部では、カリキュラムポリシーに基づき、基礎から応用まで体系的に学べる教育課程を編成しています。講義・演習・実習を組み合わせた実践的な学修、特にコンピュータの基礎知識、プログラミング、ICT を利用した価値創造を学ぶ演習を通じて、専門知識と課題解決能力を段階的に育成し、社会で活躍できる技術者の育成を目指しています。教育課程については学生ポータルにおける教育課程表で、また編成をカリキュラムツリーの形で学生及び教員に周知しています。

3-3. ディプロマ・ポリシー（DP）を踏まえた単位認定基準、進級基準などの学修成果の評価方法を適切に定め、周知し、厳格に適用しているか記載してください。

コンピュータサイエンス学部では、ディプロマ・ポリシーに基づき、学修成果の評価方法として明確な単位認定基準や進級基準を定めています。これらは学生便覧やガイダンス等で周知され、成績評価や卒業要件に厳格に適用されています。授業アンケートや成績分布による学修成果の可視化と教育の質保証に資する体制が整備されています。
--

3-4. 教授方法の工夫（アクティブラーニングなど）と効果的な実施について記載してください。
--

コンピュータサイエンス学部では、アクティブラーニングや PBL（課題解決型学習）、プログラミングの演習、ケーススタディなどを積極的に導入し、学生の主体的な学びを促進しています。これにより、論理的思考力や問題解決能力、チームでの協働力が向上し、実社会で即戦力となる人材育成に寄与しています。
--

3-5. 3つのポリシーを踏まえた学修成果の把握と評価方法について記載してください。

コンピュータサイエンス学部では、3つのポリシーに基づき、講義・演習・実習を通じて学修成果を多面的に評価しています。各科目のシラバスに明記された評価方法に従い、定期試験やレポート、小テスト、発表等を組み合わせて厳格に判定しています。また、卒業課題では複数教員による審査を行い、総合的な能力を評価しています。

自己評価

ア. 課題を改善した又は新しい取り組みを実施した
イ. 前年どおりである又は特に問題はない
ウ. 改善・修正が必要な点がある。

イ

上記、「ア」を選択した場合、改善した課題又は新しい取り組みを記載してください。

上記、「ウ」を選択した場合、改善、修正案を記載してください。

4. 教員の体制と能力開発

教員が教育・研究の質を高めるための体制と取り組みがあるかを確認します。

4-1. 教員の採用・昇格基準の明確化について記載してください。

コンピュータサイエンス学部では、教員の採用・昇格に関して、研究業績、講義の実施や学生指導などの教育能力、大学運営への貢献実績などを基準とした明確な規程を整備しています。これらの基準は大学規程集に明記され、学内で共有・運用されています。昇格審査は人事委員会等の審議を経て、公正かつ厳正に実施されています。

4-2. FD (Faculty Development) 活動の実施状況について記載してください。

コンピュータサイエンス学部では、大学全体のFD方針に基づき、授業改善や教育の質向上を目的としたFD活動を継続的に実施しています。FD委員会を中心に、各学部・学環から選出された教員が参画し、授業評価や教育課題の共有、改善策の検討を行っています。また、学部内で学生への進路指導、授業アンケートの確認と共に教授法の共有を実施し、教育改善に活用しています。

4-3. 教員の教育・研究活動の成果と評価について記載してください。

コンピュータサイエンス学部では、教員の教育・研究活動に対し、授業点検や授業評価アンケート、研究業績の自己申告を通じて、学部長及び学部長補佐からなる補佐会議にて成果を把握しています。また、大学で設置している人事委員会に把握した結果を共有するとともに議論を実施し、透明性と公正性が確保されています。

自己評価	
ア. 課題を改善した又は新しい取り組みを実施した イ. 前年どおりである又は特に問題はない ウ. 改善・修正が必要な点がある。	イ

上記、「ア」を選択した場合、改善した課題又は新しい取り組みを記載してください。

上記、「ウ」を選択した場合、改善、修正案を記載してください。

5. 独自基準（学部の特徴）

学部が持つ独自の強みや個性、特色を確認します。

5-1. 学部が個性・特色として重視している領域について記載してください。

コンピュータサイエンス学部では、ICT を活用して社会に新しい価値を創り出すことができる人材を育成しており、多様で先進的な ICT や信頼されるビジネス基盤の実現を重視しています。教育環境として仮想 GPU 機能をもつ学部独自のクラウドによる機械学習をはじめとした AI を活用した授業や、学生の自主的活動を支援するための CS 道場を通じて、実践力と自主的に技術や価値を創造する力を備えた技術者の育成を目指しています。

5-2. 他大学との違いを示す取り組みがあれば記載してください。

コンピュータサイエンス学部では、教育環境において学部独自のクラウドの構築を進めており、2024 年度は 1) クラウドを構成するホストの追加、2) ユーザデータ格納領域の増強、3) 既存設備の保守等を実施し、また、4) 最新のパーソナルな GPU クラスタ構築可能なシステムの導入を実施しました。これにより、学部学生や教員がネットワークを介して、機械学習や高速計算をする体制を整えています。

さらに、2021 年度から実施している第 2 期の戦略教育プログラムが、2024 年度で最終年となり、学部で学生の自主的活動を支援するための CS 道場を継続して実施しています。2024 年度に実施した道場は、ロボット道場、世界とたたかう AI 道場（Kaggle 道場）、クラウドネイティブ道場、IoT 道場、システム開発道場、ネットワーク処理道場、ビッグデータ道場の 7 道場です。これらは課外活動であり、大学院生を含む複数の学年から構成され、実践的な問題に取り組むことができる場となっています。また、学外の成果発表の場にも積極的に参加しており、例えば、ロボット道場では、ロボカップジャパンオープン 2024 に初参戦しました。さらに、システム開発道場では、多摩地域の大学間で開催された「たまマイクロツーリズムプロジェクト」に参加し、「優秀賞」「特別賞」を独占受賞しました。

その他に、価値創造演習において、八王子の課題に対しデジタル技術を用いてビジネスを改革するアイデアを出し、八王子大学 DX コンテストで発表しています。このように、ICT を駆使してビジネスを変革する取り組みを、必修科目である価値創造演習で学部学生全員が実施しています。

自己評価

- ア. 課題を改善した又は新しい取り組みを実施した
- イ. 前年どおりである又は特に問題はない
- ウ. 改善・修正が必要な点がある。

イ

上記、「ア」を選択した場合、改善した課題又は新しい取り組みを記載してください。

上記、「ウ」を選択した場合、改善、修正案を記載してください。